



はとの子だより

No.7 令和4年9月30日(金)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

垣根を越える ～はとの子運動会・よつば学習～

9月21日(水)、3年ぶりに保護者の方々にはとの子運動会をご覧いただくことができました。昨年度は中止、一昨年度は子どもたちのみでの開催でした。

普段の頑張りの成果をお家の方々に見ていただける機会とあって、子どもたちからは普段とかなり違う気持ちの高まりを感じました。

実施予定日だった17日は、感染症対策のために延期の判断をせざるを得ず、落胆を隠せない子どもたちもいました。「もしや今年も…」と悪い予感が脳裏をよぎったはずですが、そんな子どもたちが4日間やる気を保ち続けることができるよう、励まし支えてくださった保護者の方々もいらっしやったのではないのでしょうか。



初めて小学校の運動会を体験する1・2年生の徒競走では、歯を食いしばって走る子、速く走れずに悔し泣きをしながらゴールする子、思い切り走れる喜びから満面の笑みで走る子など、たくさんの表情を見ることができました。どの子の表情からも、今を一生懸命に生きていることが感じられました。

そんな低学年の子どもたちを、ゴールで待ち受ける高学年の子どもたちの姿には心を揺さぶられました。ゴールした子どもを着順の待機場所に誘導しながら、肩に手をかけ「最後まで頑張ったね」「速かったね。すごいよ」「楽しかったでしょう。よかったね」など、優しく声を掛けていたのです。



2学年による合同の趣向走では、互いの頑張りに夢中になって拍手や声援を送る姿も見られました。こうして学年を超えて声を掛け合ったり、互いの頑張りを讃え合ったりする姿を目にするのが、実に久しぶりに感じました。



朝はどんよりした曇り空でしたが、学年を超えて力を高め合う子どもたちを祝福するかのよう、青空が広がっていきました。

応援に来てくださったご家族の皆様には、2学年ごとの入替という制限にも大変協力的に行動していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

はとの子運動会では久しぶりに学年の垣根を越えた活動を見ることができましたが、本校が取り組んでいる「よつば学習」は、学校園の垣根を越えた大事な取組です。

4年生は、附属特別支援学校のかば学級の友達と交流するための計画づくりに励んでいました。設定したテーマ「きずなをふかめよう」に沿ったものかどうか意識しながら、取り組む内容を決める姿が印象的でした。楽しかったら何でもよいわけではないというだけではなく、自分たちとは異なる特質をもつ相手の状況に応じたものであるかどうかを意識していたからです。

みんなで一緒に楽しめる遊びはなんだろう？と考えて編み出した遊びのひとつが、「ミックス・バスケット」でした。イス取りゲームとフルーツ・バスケットの異種混合だそうです。ルールを図解する道具を作ったり、ゲーム中に使用する楽曲を選んだり、一人一人が役割を果たそうとしていました。

「楽しみたい」という気持ちが先走ると、体をめいっぱい動かす遊びについて偏りがちですが、中には身体的な困り感を抱えている子どももいるので、そう簡単には決められません。熟考を重ねて編み出したゲーム。きっとわかば学級の友達も楽しんでくれるはずです。

附属学校園では、障害の有無にかかわらず、様々な特徴をもつ子どもや大人が困っていることを補い合ったり、得意なことを生かし合ったりしながら暮らしていくことができるような共生社会づくりについて学んでいます。「よつば学習」は、共生社会の実現に向けて、まずはお互いのよさや困り感について理解を深めるところから出発するための取組です。

この取組によって、実は小学校に通う子どもたちも、できることとできないことがあって、互いに支え合う必要があることに気付くようになります。自分が困ったら「助けて」と誰にでも声を掛けることができ、困っている人を見たら「どうしたの？手伝おうか」と言えるようになることが、本校の教育目標でもある「自律」した姿です。

もし、保護者の方々の中にも、困っている方、困っている誰かを知っている方がいらっしゃいましたら、遠慮なく学校までご相談ください。



コロナ禍を乗り越えて～部活動の躍進～



台経験の少なさを、日々の練習から生まれた自信と、普段から人に見られることに慣れている適応力とで補っていたようです。

合唱部がまた好成績を残しました。第89回NHK学校音楽コンクール東北ブロックコンクールで、秋田県勢最高の銅賞を受賞しました。おめでとうございます！

9月24日(日)に秋田市文化会館で第40回小学校器楽祭が開催され、本校の吹奏楽部が出演しました。

実に、3年ぶりの公の場での演奏です。前々日の練習で気合いの入った演奏をしていた子どもたちに心境を尋ねたところ「特に緊張していません」という子が多かったのですが、本番でも気持ちが乗ったことがわかる演奏を聴かせてくれました。舞

